

次に、第2の柱

『ふるさとを愛する豊かな心づくり』についてであります。

学校教育につきましては、子どもたちが確かな学力を身につけ、自分自身の夢を描き、その夢に向かって成長していける未来志向の教育に力を入れてまいります。

学力育成では、今年度からの3ヵ年を集中実践期間と位置づけ、算数・数学・理科・英語を中心に底上げを図っております。

他自治体で学力向上に実績をお持ちの、齋藤一弥 島根県立大学教授による市内教職員への指導や、松江工業高等専門学校による出張授業、島根県立三瓶自然館での現地授業、そして、朝起きて夜寝るまで英語で生活するイングリッシュキャンプといった取り組みを、市内小・中学校と共に考え、積極的にサポートしてまいります。

教育魅力化の一環として取り組む**未来志向の教育**では、令和3年度から小・中・高連携事業として取り組み、子どもたちからの反響が大きい「ゆめ未来講演会」を学力育成の視点を持って拡充します。

様々な分野の第一線で活躍されている方々を、講師としてお招きする年1回の全体講演会に加えて、内閣府が進める理工系女性人材育成事業の講師派遣制度を活用し、理工系に特化した講演会を実施してまいります。

教育機会の確保では、日本語が話せない外国にルーツを持つ児童に対して、従来の相談支援チームによる検討に加えて、日本語指導支援員を配置し、授業等に円滑に受け入れるよう支援してまいります。

また、支援が必要と思われる幼児の小学校への就学をより円滑に進めるため、新たに「幼児教育アドバイザー」を教育部に配置いたします。

教職員の働き方改革では、業務時間の削減のほか、学習指導の質の向上などにも

効果が実証されている「**統合型校務支援システム**」の導入を浜田教育事務所管内6市町の共同により進めてまいります。

小・中学校の再編では、出生数の急激な減少や教員不足といった情勢の変化や、近い将来における各学校施設の劣化に対応するため、この夏を目途に、中長期的視点に立った学校配置の考え方を作成し、地域の方々や保護者の皆さんと意見交換を行ってまいります。

社会教育の推進につきましては、社会教育推進センターにおいて、まちづくりセンターが取り組む社会教育活動の支援を行うとともに、新年度に、「国立三瓶青少年交流の家」と協定を締結することにより、連携を強化して、これからの地域を担う人材の育成をはじめとする社会教育事業に取り組んでまいります。

図書館につきましては、2月から中央図書館2階を中・高生の学習スペースとして一部開放いたしました。交流スペースといった新たな活用にも柔軟に対応し、より多くの皆さんに利用される図書館として取り組んでまいります。

自然・歴史・伝統文化の活用につきましては、石見銀山遺跡の世界遺産登録20周年に向けた記念事業の準備に着手するとともに、龍源寺間歩の見学ルートにつながる栃畑谷地区において、近代初期の製錬施設や鉱山都市の実態解明のための調査を進めてまいります。

文化財の保存・活用につきましては、文化庁に認定された「大田市文化財保存活用地域計画」に基づき、「まちの文化財調査員」の配置など地域総がかりの推進体制を整えてまいります。また、寿命を迎えつつある市天然記念物の「定め松」について、樹木医等と相談の上、適切な対策を講じてまいります。

芸術文化の振興につきましては、子どもから高齢者まで、舞台芸術や伝統芸能な

どの公演や鑑賞会を通じて、様々な一流の芸術文化に触れる機会の創出に取り組んでまいります。

また、新型コロナウイルス感染症や人口減少等により活動の縮小を余儀なくされている団体に対して、継続して活動が行える仕組みづくりについて、関係団体とともに協議してまいります。

スポーツ活動の推進につきましては、令和12年に島根県で開催される「国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会」において、本市で開催する競技種目に、弓道・空手道・銃剣道が決定しました。新年度は、島根県や競技団体と会場整備等の準備を進めてまいります。

また、中学校の部活動地域移行など、近年のスポーツ情勢の変化に対応するため、大田市体育協会の体制強化や、このたび協定を締結した**日本体育大学**の協力をいただき、指導者の確保・育成、競技力の向上、スポーツ人口の底上げに取り組んでまいります。

これらの一環として、6月に開催する「VリーグJTサンダース広島」の選手によるバレー教室など、子どもたちがトップアスリートに触れる機会を創出してまいります。